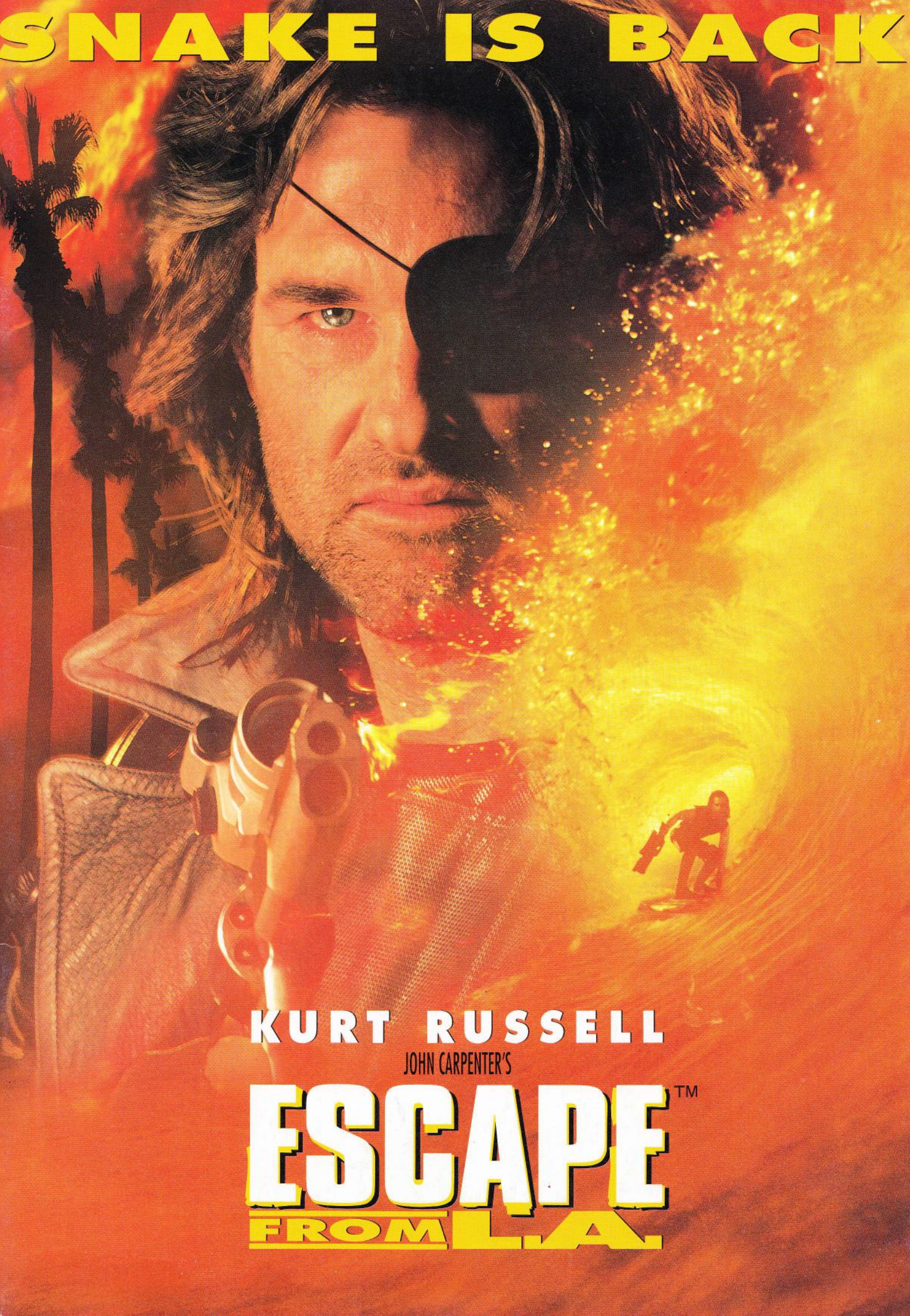


SNAKE IS BACK



KURT RUSSELL

JOHN CARPENTER'S

ESCAPETM
FROM L.A.



エスケープ FROM L.A.

 UNITED
INTERNATIONAL
PICTURES

 A VIACOM COMPANY

1996年度作品/ライシャワー・エンターテインメント提供/デブラ・ヒル・プロダクション/デラックス・カラー/シネマスコープ/2768m/6巻/SRD:SR

翻訳: 菊地浩司/上映時間: 1時間41分/UIP配給/パラマウント映画

TM&© 1996 Paramount Pictures. All Rights Reserved. ESCAPE FROM L.A. is a Trademark of Paramount Pictures, Shochiku Co., Ltd. Authorized User.



あなたは想像できるだろうか？
自由を失った



Introduction



ひとつの大地震によって変貌し、 恐ろしいアメリカの未来社会を...

“80年代最高のSF”

“その後の未来的思想に限りなく影響を及ぼした”
と、今なお高い評価を世界中で受けている近未来
SF映画の傑作「ニューヨーク1997」(81)から15年

今、全く新しいアイデアにより、史上最強のダー
ティ・ヒーロー“スネーク・プリズケン”が再び立
ち上がる時を迎えた!!

パラマウント映画超大作、ジョン・カーペンター
監督による「エスケープ・フロム・L.A.」は「ニ
ューヨーク1997」の続編の形をとりながらも、独立し
た最新の近未来SF映画である。

かつて、B級作品「ターミネーター」が7年後の
「T2」で大幅にスケール・アップしたのと同様に、
700万ドルだった前作を遥かに上回る5,000万ドルも
の巨額の製作費を投入した「エスケープ・フロム・
L.A.」には、驚異的な見所が随所に盛り込まれた。
まず、「ビッグ・ワン」と呼ばれる大地震の映像では、
地震による都市の崩壊や逃げ惑う人々、その影響で
発生した大津波がL.A.を襲うといった想像を絶す
るスペクタクル・シーンが登場。また孤島となった
島の外では、海の底に沈んだユニヴァーサル・スタ
ジオを始めとするかつての都市が、内側では破壊さ
れたサンセット大通りの全長1.2kmに及び巨大なセ
ット、そしてビバリーヒルズ、チャイニーズ・シア
ター、オリンピック・スタジアム、ディズニーラン
ド等の変わり果てた観光の名所が、かつて見た事も
ない未来の暗黒世界として次々とスクリーンに映し
出される。

撮影は、ロサンゼルス市の殆どの場所で行われ
た。クイーンメリー号、ユニオン駅、ウィルトモア・
ホテル、グリフィス・パーク、メモリアル・コロシ
アムといった有名な場所が、この暗黒の未来の物語
での背景となった。

そして、これらの目を見張る映像と共に「エスケ
ープ・フロム・L.A.」の象徴となるのは、アイ・パ
ッチと革ジャンを身に付け、カート・ラッセルが再
びダーティなヒーローを演じるスネーク・プリズ
ケンの存在である。

この強烈なインパクトとカリスマ的な魅力を持つ
アウトローのスネークは、カーペンター監督が“私
の権力に対する嫌悪を伝えている”というように反
体制の象徴でもあり、また日々を生きながらえる昔
のガンマンのようなキャラクターだ。そのスネーク
がいかにしてL.A.島に侵入し、世界を脅かす新兵
器を奪還し、そして脱出するのが「エスケープ・
フロム・L.A.」の核となり最大の見所である。

まるでSF作家でも思いつかないような発想を、
一本の映画として世界を築きあげたのが監督ジョ
ン・カーペンターだ。彼はこれまでも、「遊星からの
物体X」「スターマン/愛・宇宙はるかに」「セイリブ
「光る眼」の4本の作品で異星人をテーマにしながら、
全く異なった手法で表現することに成功するなど、S
Fセンスは傑出していると高い評価を得ているが、最

もその手腕を発揮したのが「エスケープ・フロム・
L.A.」の前作にあたる「ニューヨーク1997」である。

「スター・ウォーズ」以降の、特撮のみを重要視し
大作化したSF映画とは対照的に、カーペンター監督
はアイデアで勝負し、その創り上げた独自の近未来像
における意外性と恐怖感、多くの人々を熱狂させ、
この一作でセンスとレベルの次元の差を証明した。

その「ニューヨーク1997」では、犯罪率上昇の打
開策として、ニューヨークのマンハッタン島をまる
ごと監獄とし、そこに墜落した大統領専用機から24
時間の猶予で大統領を救出する任務を受けた犯罪者
スネーク・プリズケンの戦いと活躍をみせた。

そして、16年後の2013年、舞台はN.Y.からL.A.へ
と移り、政府が奪還不可能と下した作戦の任務を果た
すためスネークが再び送り込まれることになるのだ。

スネークが立ち上がる時、ロサンゼルスは白熱し、
やがてアメリカン・ヴァイオレンスは最高潮に達する!!

主演のクールなスネーク役には「バックドラフト」
「スターゲイト」のカート・ラッセル。共演は、マ
ップ・トゥ・ザ・スターズ・エディ役に「デスベラ
ード」「パルプ・フィクション」のスティーブ・ブシ
ェミ、大波待ち続けるパイプラインには「イー
ジー・ライダー」のピーター・フォンダ、ビバリーヒル
ズの外科医総統役に特殊メイクで挑むのは「死霊の
はらわた」シリーズのブルース・キャンベル、そし
て合衆国大統領には「まごころを君に」の名優クリ
フ・ロバートソン。その他、「フォー・ルームス」の
バレリア・ゴリノ、「クラス・オブ・1999」のバム・
グリア、「コロンブス」のジョージ・コラフェイス、
「壁の中に誰かがいる」のA.J.ランガー、「ロング・
ライタース」のステイシー・キーチといった個性的な
出演陣が、各々魅力的なキャラクターに扮している。

監督は、類いまれなるアイデアを独自のセンスで
映像化し続ける「ニューヨーク1997」「遊星からの物
体X」のジョン・カーペンター。製作はカーペンター
の初期の作品を手掛けた他、「デッドゾーン」「フィ
ッシャー・キング」等を放ったデブラ・ヒルと、カ
ート・ラッセルが自らあたり、脚本はこの2人にカ
ーペンターが加わった。撮影は近年のカーペンター
作品の全てを手掛けたゲイリー・B・キップ。音楽は
18本の監督作中これが自ら手掛けた15本目となるカ
ーペンターと、「透明人間」のシャーリー・ウォーカ
ーのコンビ。また、ショッキングな未来世界を創造
したプロダクション・デザイナーは、「ブレードラン
ナー」「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のローレ
ンス・G・ボール。特殊効果コーディネーターはマー
ティン・プレシンで、ブエナ・ビスタ・ビジュアル・
エフェクトがウィルシャー大通りを飲み込む巨大な
津波等のスペクタクルなシーンを創り出している。

想像を超えるアイデアと未知なる世界を築き上げ
た映像が融合する「エスケープ・フロム・L.A.」。
ここに登場するハリウッド、ビバリーヒルズ、アナ
ハイムといったL.A.の顔は、あなたが知っている
観光地ではない!!



KURT RUSSELL

カート・ラッセル

スネーク・プリスケン

Snake Plissken

30年以上に渡って、コメディからシリアス・ドラマまで多彩な映画で、印象深い演技を残しているラッセル。本作品がカーペンター監督との5本目のコンビとなる。

マサチューセッツ州スプリングフィールド生まれ。9歳の時から子役として俳優業を始め、'63年にエルビス・プレスリー主演の「ヤング・ヤング・バレード」で本格的な映画デビューを果たす。

以後10年間は、ディズニー映画やテレビ番組に出演し、人気を博す。その間、ヤンキーの選手だった父の影響もあり、プロ野球の選手としてプレイするが、肩を故障し再び俳優に専念する。

その後プレスリーを演じたTV映画「ザ・シンガー」(79) (カーペンター監督)で絶賛され、エミー賞にノミネートされる。'81年には運命ともいえる本作のオリジナル「ニューヨーク1997」に出演。存在感あるアイ・パッチをした無法者スネークを魅力的に演じたことにより、一躍タフ・ガルのイメージを築き上げたラッセルは、その後も「遊星からの物体X」(82)、「ゴーストハンターズ」(86)でカーペンターと組み、役者としての新たなスタートを飾る。

またその間、ラブ・サスペンス「テキサス・サンライズ」(88)、ヒューマン・コメディ「潮風のいたずら」(88)、そしてシルベスター・スタローンと共演したアクション「デッドフォール」(90)といった、あらゆるジャンルの映画で批評家たちの好評を博す。続くロン・ハワード監督の「バックドラフト」(91)では、勇気ある消防士役を熱演し実力を遺憾なく発揮。以降は、ボックス・オフィスにおいても常に上位に顔を出すマナー・メイキング・スターとなり、俳優としての地位を不動のものとした。

その他の出演作に、「ユースド・カー」(80)「シルクウッド」(83)「ウインター・ピープル」(89)「不法侵入」(92)「トゥーム・ストーン」(93)「スターゲイト」(94)等があり、最近作には「エグゼクティブ・デジジョン」(96)がある。



再び送り込まれた凶悪犯スネーク

S・D・プリスケン、通称スネーク

アメリカ特殊部隊の中尉時代に名誉負傷賞を2度、大統領に叙勲された最年少者となる。

しかしその後、国家に対して不信感を抱いたプリスケンは、やがて犯罪の道に身を投じるようになった。

1997年に連邦準備銀行強盗の罪で、'88年から監禁となったニューヨーク刑務所送りの終身刑を受けるが、当時のポリス・コミッショナー、ボブ・ホークと組み、罪状が全て赦免になる代わりに連れ去られた大統領を救出する任務につく。24時間以内の救助という過酷な条件にも関わらず見事に任務を遂げるが、国家機密の重要テープを破壊した罪を問われ逃亡、再びスネークは犯罪と逃亡の日々を積み重ねる。その後、一攫千金で捕まり死刑を宣告されながらも逃げ戻したことに成功したスネークだったが、2013年の現在、タイの米国籍ニュー・ベガスで再逮捕。これまで犯した27もの重罪を取り消す代わりに強奪された政府の最終兵器「ブラックボックス」を10時間以内に奪還する任務につくよう強いられる。

行く先々で死んだと思われながらも不死身のスネークは、冷静沈着なアウトローで単独行動を好むが、過去2回、'93年のカンザスとニューヨーク逃亡後のクリーブランドで仲間と共に犯罪を行なう。しかしカンザスでは、ハロルド・ヘルマン(後のブレイン)に裏切られ仲間のボブを失い、クリーブランドでは、カーゴ・マローン(後のハーシー)とテキサス・マイクと2人の裏切りで逮捕される等、仲間には恵まれていない。

何よりも権力を嫌い、何者にもつかず、極悪非道の世界に生きるスネーク。彼のトレード・マークは、左目のアイ・パッチと革ジャン、そして腹にあるコブラの入れ墨。

決めセリフは「コール・ミー・スネーク」。

スネーク・アイテム

地獄の島と化したL.A.島でスネークは誰も頼ることとはできない。頼れるのは自分の直感と数少ないアイテムだ。

L.A.への侵入は、一人乗りの原子力潜水艇を用いる。海中とはいえ、水面下には建物が立ち並ぶため危険で困難な操縦となる。スネークが手にする武器、メカ関係は、マグネシウム弾500発の連射が可能なコア・バーナー、敵を気絶させる口射針、姿と声を送ることができるが試作段階の携帯用ホログラム・カメラ、熱感知も防ぐ耐火式ステルス・スーツ、その他、カイト、ハーレーダビッドソンXL-883等が登場する。



スティーブ・ブシェミ

STEVE
BUSCEMI

Map To The Stars Eddie

マップ・トゥ・ザ・スターズ・エディ

独特の芸風とキャラクターで活躍を続けているブシェミ。

オフブロードウェイから86年に「Parting Glances」で映画デビューを果たした彼は、ジム・ジャームッシュの「ミステリー・トレイン」(89)でスピリット賞にノミネートされ、早くも頭角を現す。その後も、コエン兄弟の「ミラズ・クロッシング」(90)や「パートン・フィンク」(91)、そしてタランティーノの「レザボア・ドッグス」(91)や「パルプ・フィクション」(94)といった話題作に次々と出演し、「レザボア・ドッグス」ではスピリット賞助演男優賞に輝き、批評家たちの絶賛を博した。最近では、アントニオ・バンデラス主演の「デスペラード」(95)で、彼の相棒役を好演している。

その他の出演作に「ニューヨーク・ストーリー」(89)「ライジング・サン」(93)「未来は今」(ハードロック・ハイジャック) (94)「デンバーに死すとき」(95)等がある。



ピーター・フォンダ

PETER
FONDA

Pipeline

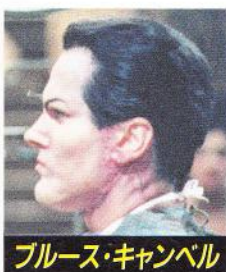
パイプライン

ニューシネマの名作「イージー・ライダー」(68)を始めとして、あらゆるジャンルの映画に出演しているフォンダ。

1939年2月23日、ニューヨークにヘンリー・フォンダの長男として生まれる。オマハ大学で劇団に参加した彼は、卒業後にブロードウェイの舞台に立ち、ニューヨーク批評家賞を受賞、すぐに脚光を浴びる。

'62年にサンドラ・ディーの相手役として「タミーとドクター」で映画デビューを果たす。その後、60年代後半から70年代にかけて、「イージー・ライダー」(兼製作) (69)、「ふたり」(73)そして、「ダーティ・メリー・クレイジー・ラリー」(74)等の作品に出演。「さすらいのカウボーイ」(71)では監督もこなし、多才さを発揮した。'78年には「グラント・キャニオンの黄金」(TV)で、父親のヘンリーと共演も果たしている。

その他の出演作に「世にも怪奇な物語」(67)「悪魔の追跡」(75)「未来世界」(76)「キャノンボール」(81)等がある。



Surgeon General of Beverly Hills ビバリーヒルズ外科医総統

ミシガン州立大学映画研究会からの先輩であるロバート・タパート、サム・ライミらと映画を撮り続けていたキャンベル。

'83年には、2人と一緒に撮ったスプラッター・ムービーの代表作とも言える「死霊のはらわた」を発表。この作品で彼は主役を演じ、さらに製作総指揮を手掛ける等、一躍脚光を浴びることとなる。その後も「XYZマーズ」(85)、「死霊のはらわたII」(87)そして「ダークマン」(90)で、タパート、ライミの2人と組み、息の合った所を見せている。

最近では、ティム・ロビンズ主演の「未来は今」(94)や、フランク・マーシャル監督の「コンゴ」(95)、シャロン・ストーン主演の「クイック&デッド」等の作品で、強烈な印象を残す脇役を演じ、多くのファンの支持を集めている。

その他の出演作に「マニアク・コップ」(88)(90)シリーズ、「ワックスワーク2/失われた時空」(92)、「キャプテン・スーパーマーケット」(93)等がある。



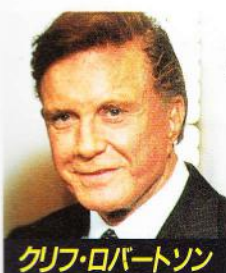
Taslima タスリーマ

1966年10月22日イタリアのナポリ生まれ。14歳からモデルとしてアテナで活躍したゴリノは、17歳でリナ・ウェルトミューラー監督に見い出され「A Joke of Destiny」で映画デビュー。

'86年には「愛の物語」⑤でベネチア映画祭の女優賞を受賞し、批評家たちの高い評価を得る。さらに'88年、アカデミー作品の「レインマン」で、トム・クルーズの恋人役を演じ、一躍世界的に知られることとなる。

また彼女は、あらゆる映画をパロディ化した大ヒットコメディ「ホット・ショット」(91)(93)シリーズにも出演し、コミカルな演技を披露している。

その他の出演作に「三人姉妹」(88)「インディアン・ランナー」(91)「不滅の恋/ペーターベン」(94)、最近作にはタランティーノの「フォー・ルームス」(95)がある。



The President 合衆国大統領

「まごころを君に」(68)でアカデミー賞主演男優賞に輝いているベテラン俳優のロバートソン。

1925年9月9日、カリフォルニア州ラ・ホーラ生まれ。40年に渡るキャリアの中で43本の映画に出演している彼は、あらゆるジャンルで才能を遺憾なく発揮し、息の長い活躍を続けている。

彼の数ある出演作には「魚雷艇109」(63)「コンドル」(75)「愛のメモリー」(76)等があり、最近では「勇気あるもの」(94)に出演している。



Hershe ハーシー

女優であり歌手でもあるグリア。

UCLAに学んだ彼女は、「ワイルド・パーティ」(70)で映画デビューを飾る。その後は「Foxy Brown」「Coffy」「Sheba Baby」といったアクション映画に出演。「アパッチ岩ブロンクス」(81)では、ジャンキー役に強烈な印象を与えた。

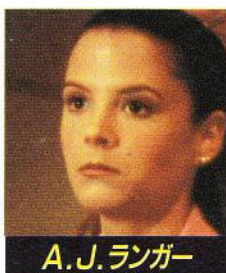
さらに「ザ・パッケージ/暴かれた陰謀」(89)や「クラス・オブ・1999」(90)の作品でも存在感ある演技を披露している。そして'93年には、ナショナル・ブラック・シアター・フェスティバル賞とアフリカン・アメリカン・フィルム・ソサエティ功労賞に輝いている。

その他の出演作に「吸血鬼ブラキュラの復活」(72)⑥「悪魔の改造人間」(86)「黒豹のパラード」(93)がある。



Cuervo Jones クエボ・ジョーンズ

ヨーロッパで舞台を中心に活躍しているコラフェイス。1952年12月7日、パリで生まれた彼は、早くから俳優を志し、名門のコメディ・フランセーズに入学する。その後は、パリで舞台に立ち、役者としてのキャリアを積んだ。映画への進出は、巨匠デビッド・リーン監督作の主役で果たされるはずだったが、リーンの死で製作中止となる。しかし'92年に、アメリカ大陸発見500周年作品として作られた「コロンプス」で、見事主役に抜擢され、マーロン・ブランドやトム・セレックを相手に堂々の演技を披露し一躍注目を浴びた。



Utopia ユートピア

批評家に絶賛されている人気テレビ・シリーズ「My So-Called Life」のレイアン役で、全米に知られているランガー。

オハイオ州コロンバスに生まれた彼女は、中学の時に教師からアーティストのマネージャーを紹介されたのをきっかけに女優を志す。そしてフォックス・テレビの「Parker Lewis Can't Lose」の主役を見事に射止め、その後も「ベイウォッチ」や「ビバリーヒルズ高校白書」といった人気シリーズに出演する。映画への出演は、'91年にウェス・クレイヴン監督の「壁の中に誰かがいる」で、監禁された少女アリスを好演している。さらに「ニューマン」(91)、そして本作品と今後の活躍が期待される。



Malloy マロイ

1946年6月1日、ジョージア州サバンナ生まれ。演劇を教えていた父親の影響で俳優志願だった彼は、カリフォルニア大学在学中から劇団に参加し、その後イエール大学の演劇科で学ぶ。フルブライト奨学金を得てロンドンへ留学、帰国後、舞台でキャリアを積む。

ブロードウェイでのデビュー作「Indians」でトニー賞にノミネートされ一躍注目を浴び、その後3度のオビー賞を受賞している。映画への出演は、'68年の「愛すれど心さびしく」からで、「ドク・ホリデー」(71)では主役を演じ、印象的な演技でマスコミから絶賛を博す。

その他の出演作に「センチュリアン」(72)「ロング・ライダース」(80)「クラス・オブ・1999」(90)等がある。

テレビでも好評を得ているキーチは、カーペンター監督の「ボディ・バックス」でケーブルACE賞を受賞している。



Brazen ブレイズン

テキサス州オースティン出身のフォースは、オフ・オフ・ブロードウェイの舞台から女優としての一步を踏み出した。ロサンゼルスに移ってからはTVシリーズ「新スタートレック」などに出演。その後「カリフォルニア」(93)でブラッド・ピットらと共演、最近ではNBCのTVムービー「The Prosecutors」の撮影を終えた。今後も益々活躍が期待される女優である。

Cast Profile

■大地震とApocalypse(黙示録)

4年後の西暦2000年、犯罪都市として知られる一方、毎年3,000万人もの観光客が訪れる、カリフォルニア州ロサンゼルスに異変が起きた。8月23日、午後12時59分にマグニチュード9.6の大地震がL.A.を直撃し、街全体が倒壊。地震により生じた大津波は街を一飲みし、60万人の命を奪った。

更に、サン・フェルナンド・ヴァレーに亀裂が生じ、この一帯は海拔0m以下となる。つまり、L.A.は海に囲まれた孤島と化した。

■新制、アメリカ合衆国の誕生

大地震の後、アメリカは大きな変化を遂げていた。力を増した国内の反抗勢力に対して既に結成されていた国家警察を皮切りに、この大地震を予言した大統領候補は新大統領(クリフ・ロバートソン)となり、終生の任期を得ていた。憲法は大幅に改定され、新大統領はモラルの高さを主張。それは、タバコ、ロック、宗教の自由、赤肉(牛肉・羊肉)、承認なき結婚等を全て禁止する事を示していた。そして首都は、ワシントンから大統領の故郷であるヴァージニア州リンチバーグへと移された。

■監獄島と化したロサンゼルス

オゾン層破壊が進んだ2013年、人々は時折降る酸性雨と、皮膚を破壊する強烈な紫外線から身を守るため、日中の行動を避けていた。

孤島と化したL.A.は、新しいアメリカの規律に反する者たちの追放地域となり、有罪判決を受け一度市民権を失った米国民は、合衆国から切り離されたこの島から二度と戻ることを許されなかった。島の囚人たちは凶悪犯罪者のみならず、娼婦、家出人、そして無神論者さえ含まれていた。島の周りは、軍隊のような国家警察が海岸線を守り、南東のオレンジ・カウンティから北西のマリブまで監視の壁に囲まれた。島へは国外追放センター待機棟から送られ、そこでは罪を悔いる者に電気イスの選択を許可し、また、専用のポリス・チャンネルがその恐ろしい一部始終を撮影し、国中に映像を流していた。

■ペルーの革命家、クエボの報復

残虐なテロリスト集団“輝く道”のリーダー、クエボ・ジョーンズ(ジョージ・コラフェイス)はL.A.一の悪党として恐れられ、大統領以上の守りの堅さと軍隊なみの武装力を誇っていた。クエボにとってのアメリカは、偽りと恐怖の腐敗した神権政治であり、彼の目的は第三世界をまとめ北米を取り返すこと。彼は大統領の娘コートピア(A・J・ランガー)を利用し、手中にしたブラックボックスを片手に大統領へ向けメッセージを送った。

「L.A.島の全囚人を開放せよ!!」

■政府の切り札“ブラックボックス”とは!?

国家機密で守られてきたブラックボックスは政府が開発したエネルギー破壊器だ。

外観は普通のリモコン装置だが、中のディスクが究極の防衛システムとなる。その仕組みは、人工衛星に取付けられた中性子爆弾を起爆させ、放射された強電磁波が生命には無害だが全ての電気エネルギーを破壊する。それを正確な照準器に変えるのがディスクなのだ。ブラックボックスは、一台の車から国土まで目標を狙い撃ちすることが可能で、地球上を暗黒時代にも変えうる恐怖の兵器なのである。

■全てを委ねられた極悪囚人スネーク

この国家を揺るがす緊急事態に、大統領はある決断を余儀なくされた。

クエボ達が仕掛ける戦争開始の時は近づき、先に送り込んだ5名の救助隊の4名は殺され残りの一人も消息を絶っていた。政府が下した決断は奪還不可能。だが、たった一つの可能性が残されていた。それは、27もの重罪を犯した犯罪の帝王を送り込むことだった。その囚人の名はスネーク・ブリスケン(カート・ラッセル)。彼は以前、24時間の限られた時間内で、監獄と化したニューヨークから大統領を救出した実績を持っていたからだった。

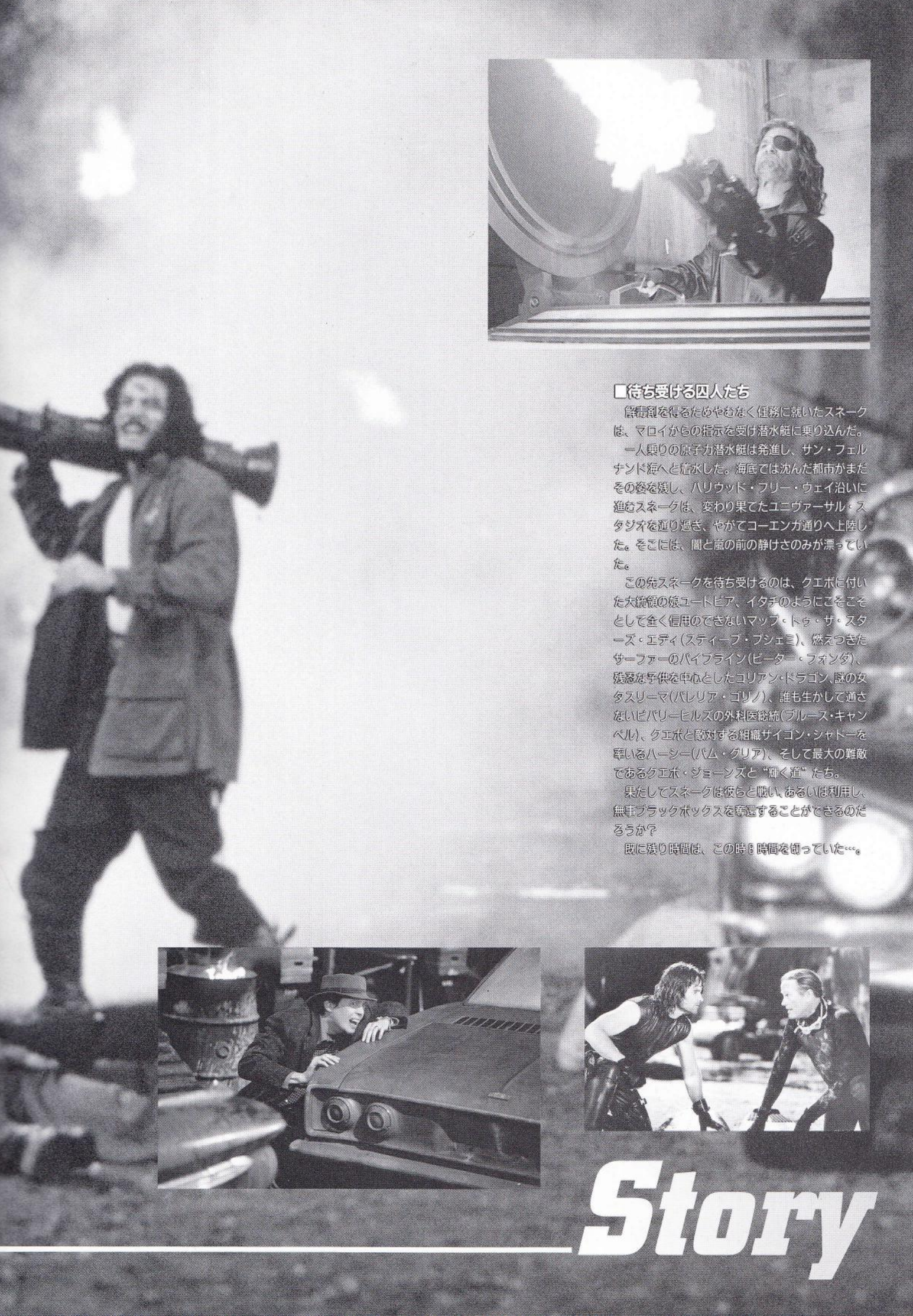
大統領とポリス・コミッショナーのマロイ(ステイシー・キーチ)達は、スネークに強制的に任務を与えた。聞く耳さえもないスネークだが、彼らはそれを見越し先手を打っていた。スネークが断れない方法、それは彼の体内に既に入り込んだ恐ろしいビールのことを指していた。

■殺人菌ブルトキシンの秘密

遺伝子工学により作られたブルトキシンは、生物を死に至らしめる恐怖のビールスだ。解毒剤は存在するが、10時間以内でないと効力を失う。このビールスが体内に入ると約2時間で頭痛が始まり、熱が徐々に始め体力が低下する。最終的には全ての神経を破壊し、感染者は血を流して死んでしまう。

そしてブルトキシンには誰も知らない、もう一つの秘密が隠されているという。





■待ち受ける四人たち

解毒剤を得るためやむなく任務に就いたスネークは、マロイからの指示を受け潜水艇に乗り込んだ。

一人乗りの原子力潜水艇は発進し、サン・フェルナンド海へと着水した。海底では沈んだ都市がまだその姿を残し、ハリウッド・フリー・ウェイ沿いに進むスネークは、変わり果てたユニヴァーサル・スタジオを走り過ぎ、やがてコーエンが通りへ上陸した。そこには、闇と嵐の前の静けさのみが漂っていた。

この先スネークを待ち受けるのは、クエボに付いた大統領の娘ユートピア、イタチのようにこそこそとして全く信用のできないマップ・トゥ・サ・スターズ・エディ(スティーブ・ブシェミ)、燃えつきたサーファ어의パイプライン(ピーター・フォンダ)、残忍な子供を中心としたコリアン・ドラゴン、謎の女タスリーマ(パレリア・ゴリノ)、誰も生かして通さないピバリーヒルズの外科医総統(ブルース・キャンベル)、クエボと敵対する組織サイゴン・シャドーを率いるハーシー(バム・グリア)、そして最大の難敵であるクエボ・ジョーンズと“輝く道”たち。

果たしてスネークは彼らと戦い、あるいは利用し、無事ブラックボックスを奪還することができるのだろうか？

既に残り時間は、この時1時間を回っていた…。



Story



『エスケープ・フロム・L.A.』は、 カーペンターが描く アメリカン・スピリッツの再生

YOSHIAKI WASHIZU

鷲巣義明
(映画評論家)



『エスケープ・フロム・L.A.』は、カーペンター・アクションの集大成といっても過言ではない。今までのカーペンターのアクションといえば、彼が敬愛するハワード・ホークス監督の名作『リオ・ブラボール』を現代版に翻案したアクション・スリラー『要塞警察』をはじめ、『エスケープ・フロム・L.A.』の前章『ニューヨーク1997』、リトル・チャイナの地下に蔓延る幽霊との対決をコミカルに描いた『ゴースト・ハンターズ』、人間の姿を借りた異星人たちとホームレス男性の戦いを描いた『セイリブ』がある。いずれの作品も『荒野の用心棒』のようなウェスタンによく見られる設定を発見することができる。限定された空間内(地域)において、主人公が敵と戦い、一度は痛い目に遭ってほろり出され、再び戦いに立ち上がるという設定が約束事のように用意されている。

更に細部を見つめれば、『ニューヨーク1997』にマカロニ・ウェスタンの悪漢ヒーローのリー・バン・クリーフを出演させたり、『ゴースト・ハンターズ』のジャック・バートン愛用のバッグはカウボーイが使うものであったし、『セイリブ』ではカーペンター自ら作曲したウェスタン調の曲がオープニングにかかったり、主人公のネイダの銀行襲撃シーンはもろウェスタンのりだった。これらウェスタンの要素が多分に含まれていることで、いかにカーペンターが少年時代からウェスタンに憧れていたかを充分知ることができる。

したがって『ヒート』のマイケル・マン監督が濃厚で乾いた感覚で男の世界を描くのと異なるし、『ターミネーター2』のジェームズ・キャメロン監督が度肝を抜くようなスเปクタクル映像の連べ打ちで描くアクション世界とも異なる。アメリカ映画界にあって、カーペンターが描くアクション世界は、他に類を見ないものである。

現在のアクションは多種多様の広がりを見せている。しかしカーペンターが想う、“これぞアメリカらしいアクションの原型”こそがウェスタンであり、彼自身のアメリカへの帰属意識のひとつがウェスタンとして表現されているのかもしれない。

アメリカらしさを失いつつある現在のアメリカのアクション映画は、ビッグ・スターが主演し、観客が退屈させなければいいみたいな見せ場が連続する作品が現在の娯楽アクションの主流になっている。派手で豪華で見映えさえすれば、キャラクターが多少魅力的でなくてもよしとされるのだ。いわゆるハイスピードで疾走するジェット・コースター・ムービーを映画会社は欲している。

だからカーペンターは、頑なにアメリカらしさの匂いを感じさせるウェスタンに固執し、ウェスタンのアウトローを彷彿とさせるようなキャラクター、スネーク・プリズンを登場させる。だからカーペンター映画のガン・アクション(殺陣)は、マイケル・マンのフェチズムさえ感じさせるような現代的なガン・アクションとはまるで違う。キャメロン作品のようにヘヴィな重火器を乱射することもない。ジョン・ウー監督のような香港風アクロバティックなアクションを見せる必要もない。

『エスケープ・フロム・L.A.』のガンファイトは、どれを取ってもオールドソックスなウェスタン流である。二挺拳銃をフォルスターに納めるシーンや、いかにも馬車と見立てた自動車に次々とスネークが乗り移ってクエボに迫っていくシーン、スネークが数人の悪漢を相手に一気に倒す対決シーンなどがその代表的なものである。シンプル・イズ・ベストこそがウェスタンのガン・アクションの魅力である。

しかし『エスケープ・フロム・L.A.』ではウェスタンの精神が息づくばかりでなく、カーペンターの更なる帰属意識が強調されて描き出されている。これはある意味、カーペンターが感じるアメリカらしさを全てをぶち込んでいると言っても過言ではない。

まずL.A.を代表する建造物が次々と登場しているが、ハイテックで新しいメタリックなボナベンチャー・ホテルが早々に崩壊してしまう一方で、古めかしいチャイニーズ・シアターやハリウッド・サインが大地震の後も危なげだが建ち続けている。孤高のアウトロー、スネークが活躍するバックには、カーペンターが作曲したウェスタン風の音楽(スネークがステルス戦闘スーツに着替える場面で流れる)

やロックが流れているし、そのスネークがアメリカを代表するスポーツのバスケットボールをやられしたり、あけくまにサーフィンまでやってしまう。

そういえば、カーペンターの初監督作『ダーク・スター』の宇宙空間でのサーフィンは、自由と希望の象徴として描かれていた。『エスケープ・フロム・L.A.』の、頑なに自由に生きること执着するパイプラインとスネークが一緒にやるサーフィン・シーンもまた自由の象徴として捉えることができるのだ。

そう、カーペンターが最終的に描きたかった帰属意識とは、今や失われてしまったアメリカン・スピリッツの象徴“自由”である。

2013年のアメリカは、キリスト教右翼の超モラリストの権力者たちに支配され、ロックやタバコの禁止、赤肉を食することの禁止、承認なき結婚の禁止など、厳しい超規制国家を作り上げてしまう。それに違反した者は国外追放の刑罰を受け、大陸から分断されたL.A.島に連行されてしまう。

『エスケープ・フロム・L.A.』の世界観は、実際に宗教家たちが実権を握り、自由から規制へと移行していく現実のアメリカの恐ろしい姿がメタファーとなっている。そしてスネークは、自由を奪う反権力の象徴として描かれている。誰にも束縛されない、自由な生き方を実行する彼が、国家権力の手先となることで、逆に自由の在り方を浮き彫りにしていくことになる。

ラスト、スネークが落ちていたアメリカン・スピリッツのラベルがついたタバコを拾って、禁止されているタバコに火をつける。まさにこのラスト・シーンこそ“アメリカの自由とは”をもう一度見直したいと願う、監督カーペンターが託した象徴的シーンなのだ。

近代文明によって発達した全ての文明の利器と引き換えにしても、もう一度見直すべき、“人間の根源的な生き方=自由”とは?

『エスケープ・フロム・L.A.』は、アメリカいや我々人類にもう一度問いたかったカーペンターの黙示録的メッセージである……。



ESCAPETM FROM L.A.





巷じゃ香港の中国返還まであと一年ノ とかで盛り上がっているが、皆さん何かお忘れじゃありませんか？ 来年は1997年(←もう分かったね)、ニューヨークはマンハッタン島が、300万人の犯罪者を収容する監獄島になっていなければならぬ年だ。

'81年に製作された前作「ニューヨーク1997(以下、「1997」と略)」についての詳細は別項を参照していただくとして、この作品が70年代末に世界同時多発的に映画界で発生した“近未来バイオレンス”ものの中でも特筆すべき一本であったことが重要な点だ。

このジャンルでの絶対必要条件が、荒廃した未来社会。そのためには、脈々と築き上げてきた近代文明を一边チャラにするような大事件が必要。まあ、これは「第三次世界大戦」でも「火の七日間」でも「関東地獄地震」でもなんでもよい。逆に「1997」がこの方法論に従っていない点が注目なのだ。

有象無象の近未来バイオレンスの原点が'79年の「マッドマックス」と'81年に作られたその続編「マッドマックス2」にあるのは周知の事実。一方、「1997」がこれらと決定的に異なる要因とは、'74年に作られた、ニューヨークを舞台とする壮絶な復讐劇「狼よさらば」を原点にすることにある。つまり、“始めにニューヨークありき”なのだ。今ではかなり治安の良い街となったが、当時のニューヨークなんてとても住めたもんじゃなかった。(←住んでいた方、失礼ノ)。それをさらにエスカレートさせるための近未来であり、丸々街ごとの刑務所化だったのだ。

だから、続編でありリメイクでもある本作『エスケープ・フロム・L.A.』(以下「L.A.」と略)がロサンゼルスに舞台にしているのも察しがつこう。アメリカで今一番治安の悪い街、実際に巨大地震の洗礼を受けた土地。といった事実が反映されているのは明白だ。でも今回は「マッドマックス2」の影響もあるけどね。

本作の主人公スネーク・プリズケン。プリズケン

と言った方が個人的に馴染みなのだが、今回は原音に最も近いということで、この表記で統一しているそうです。(←ちなみに、私のワープロだと、勝手に“プリズ犬”と自動変換します。柴犬、土佐犬、プリズ犬。犬の種類か？)。

このクールで無口、孤独をこよなく愛し、まるで西部開拓時代から生き続けているようなアウトロー。今時、真面目にこんな人を描こうとすると観客は大笑い。昔カッコ良かったことが、今カッコ悪い時代ですからね。でも「1997」のときから、スネークはちょっと変な奴だった。アイパッチはともかく、腹に彫り込まれたコブラのタトゥーノ 上半身裸になると、パンツの上から鎌首もたげるように描かれたあの入れ墨ノ 明らかに、対同業者向けではなく女性を威圧するためのモノだ(←特にベッドの上で有効。でもオレが女だったら笑っちゃうけど)。でも、スネークはお前もあんたもみ～んな嫌い。もちろん、女も大嫌い。日く有りげで無さそな感じね。

スネークは行動に関しても不審点が多く、政府に自分の命を握られているにも拘らず、自ら寿命を縮めるような暴走行為や、時間が無いのは承知の上で、ボロ椅子に座ってのひと休み等々。もちろん「L.A.」でもこれらは健在で、刹那的というか無謀というかの活躍。しかし、スネークの挙動不審振りも、何故かそれが破綻を来すことなく、スネークというキャラクターの中でちゃんと完結している。さすがはジョン・カーペンター。スピルバーグだったらとっくの昔にアドベンチャー・ヒーロー化してるところ。

余談だが、TV放映された「1997」の吹替版の無軌道振りもスゴイ。当時、30歳前後だったカート・ラッセルの声をあの青野武が担当していることもあってか、オリジナル版でもそこはかとなく漂うダレた雰囲気さらに誇張。まるで別の映画を見ているのではないかと錯覚させるほどで、私はこの吹替版がメチャクチャお気に入り(←TVですで見られる

機会は希だと思います)。

そして、ここに満を持して15年振りに登場した「L.A.」。ストーリー、演出、役者、音楽、SFXと全編が見所という金太郎飴映画なのだが、ここでは、豪華なまでの瓦礫の山、荒廃度に注目。

一見、矛盾しているようだが、どこまでそれっぽく退廃しているかがこの手の作品の別れ道。「L.A.」ではさながら“暗黒のディズニールンド”(←本物も出るけど)とも言うべき荒廃した社会を見事に描き出している。観光地としても有名なロスの建造物群を、それっぽくブツ壊すなんてのは常套手段で、中でも本当に口ケしてる五輪メモリアルコロシラムの荒廃加減は絶品。撮影後の掃除が、さぞ大変だったのではないかとと思うと、その苦勞に涙が出るほどだが(←大げさ)、問題はその後。有りて無き退廃描写とは、それを踏まえた上でのオリジナリティに掛かっている。例えば、マンズ・チャイニーズ・シアター周辺で客を待つ娼婦(←フリンジ付きのニップレスがグッドノ)や、ハイソな方々をオチョクしたビバリーヒルズ・ホテルの病院(←素顔も判らぬ程の特殊メイクで怪演するブルース・キャンベルノ)。伝説の大TSUNAMIが来るのを待ち続けるサーファー(←今まで何して喰ってたんだピーター・フォンダ)。そして最大のお気に入り人形の首がズラッと並んだクエボの愛車ノ スネークを支援するもあっさり死んじゃう謎の女タスリーマが、「一度住んだら余所には行けないわ」なんてことを言うが、見てるだけでも住んでみたくなる。世紀末霸王願望を持つ私が、転居を願って止まない理想郷。賃貸情報誌に載ってないのが残念だが(←だってアメリカだもん。いやそれ以前の問題か)、常々この方向性のアミューズメントパークが出来ないのが残念でならない。

未だバブルが続く一部の投資家の方々、広大な空き地と化した湾岸にでも一発造っちゃくれないうですかね、L.A.島をノ 祈願ノ



近未来バイオレンスの異端児 『ニューヨーク1997』と 『エスケープ・フロム・L.A.』における 新世紀樂園伝説

鈴木和雅(エンタメムービーアナリスト)





私が『エスケープ・フロム・L.A.』の撮影現場を訪れたのは、96年2月9日の夕方だった。映画全体が一夜の物語の為、ほとんどが夜間撮影なのだ。カーペンター作品の撮影現場の取材としては『光る眼』に続き、2度目である。その日の撮影は、クエボ・ジョーンズら革命軍が集まったハッピーキングダムに、ハンクグライダーに乗ったスネークが急襲する場面だ。そこには黒人やスパニッシュ系、東洋系のエキストラの男女が何百人も集まっている。中央には、ベビードールの首がたくさん貼り付けてある、クエボの真っ赤な愛車が停まっている。とにかく『光る眼』とは比べ物にならない撮影の規模に大変驚いてしまった。そんな撮影の中、スタッフと出演者にインタビューすることができた……。

◎デブラ・ヒル (製作/共同脚本)

——『ニューヨーク1997』の続編をどうしてやりた
いと思いましたか。

「前作が好評だったから、プレスジャンケットに出る度にいつも言われてたのよ。“『ニューヨーク1997』の続編はやらないの”ってね。以前から続編はやりたかったんだけど、3年位前にロスで起きたノースリッジ地震が、事の発端だったわ。ジョン（カーペンター）とカート（ラッセル）と私はキッチンに座って、5時間位かけて話したの……という風にストーリーを進めたらいいのかってことね。それでカートと私は脚本を書いてよってジョンにお願いしたの。私もカートも少しはアイデアを提供して書いたんだけどね……」

——『ニューヨーク1997』との違いは何処にあるん
でしようか。

「いろいろな部分で前作『ニューヨーク1997』を前提にして作っています。後は技術的な問題ですね。いろいろな意味で大きな映画に。バジェットが増えましたからね。ニューヨークが舞台の時は、ニューヨークならではのことを考えたり、ロサンゼルスではロス特有の環境を生かした作品にしています。スネークも新しいハイパーテックなスーツを着て重装備でロスに赴けことになるのよ。でも今回のオープニングでスネークは、前作で着たコスチュームのままで登場するの。カートが、今までの映画人生でたった一つ保管していた大事な衣装なのよ。先週、カートがその衣装を着て現れた時、長い休暇を経て、また一緒になったって感じだったわ」

——カーペンターやラッセルとの関係は以前と比
べていかがですか。

「3人の関係は全く変わらないわ。カートは兄貴みたいだし、ジョンと私は『ハロウィン』以来、いい友人関係を築いているの。でもジョンと一緒に撮影するのは本当に久しぶり。私はジョンを監督として素晴らしいと思ってる。まず製作サイドとして言え

「エスケープ・フロム・L.A.」を生んだ 3人に直撃インタビュー!

ることは、スケジュールやバジェットを守ってくれるしね。それにジョンは商業監督じゃなくて映画作家なの。ヒットさせるアクション映画を撮れる監督は一杯いるけど、しかし彼らは語り口が狭いのよ」——大作の部類に入りますが、スタッフは最大時でどのくらい働いているんですか。

「一番最大の時で、撮影スタッフ、エキストラなどを含めて1000人くらいね。この間は、925人の食事を見たわ」

——最近のカーペンター作品には、社会的なメッセージが強調されていますが……。

「もちろん政治的なメッセージは含んでいます。権力争いが出て、現実のアメリカが抱えている多種多様な問題が描かれています。実際、キリスト教右翼主義の人たちがアメリカを動かそうとしているし、そういう人たちがはびこると、アメリカのもともとあるべき姿が冒されていきます。ここでは“自由”というのがポイントね。強いて言えば、自由が奪われてはいけないということです」

最後に、私が日本人であることに気付いて『ニューヨーク1997』のポスターは、日本版が一番良かったですね」と声を掛けてくれた。アメリカ人にしては小柄であるが、女性プロデューサーとして活躍するだけあって、体全体からエネルギーがほとばしっていた。

◎カート・ラッセル (主演/製作/共同脚本)

——スネークを久々に演じてみて、変化した部分はありますか。

「スネークの本質は、どんなに世界が変わっても変わることはないよ。スネークの考え方、生き方が好きなんだ。彼は単に人生を静かに生きてくて、誰にも邪魔されたくないと思ってる。ましてや誰かに迷惑をかけたいともかけようとも思っていない。それは我々皆が、考えていることと共通していることだと思うよ」

——この16年間、今までスネークは何をしていたと思いますか。

「知らないね。いろいろやってたんだと思う。アウトローに徹していて、タイランドで莫大な利益が絡んだ銃撃戦をやっていたところで捕まってしまい、今回L.A.に連れて来られるんだ。スネークの悪名は、ニューヨークの件もあって更に響き渡り、伝説と化している。16年も経っているから、もっと様々な事件にかかわっているはずだと思うけど」

——『エスケープ・フロム・L.A.』のアピールするポイントはどこにありますか。

「地震を予知した人物が大統領になったら、一体どんな社会になるのか? それとL.A.に地震が起きた後の状況を描いている。『ニューヨーク1997』と同じように現実を反映し、ブラックな観光的気分も味わえると思うよ。前作に比べるとアクションが多い

けど、ストーリーが実にまとまっているんだ」

思っていた以上に寡黙なラッセル。スネークは、ラッセルが他の映画で演じた役柄とは違い、外見ばかりでなく、生きざまそのものが実にカッコいい。スネークが、映画史上最高の真のヒーローであることは間違いない。

◎ジョン・カーペンター (監督/共同脚本/音楽)

——どうして『ニューヨーク1997』の続編をやろうと思いましたか。

「カートがやってきて、『ニューヨーク1997』が大変楽しかったから、もう1回やろうって言ってきたのが大きなきっかけだったね」

——スネークは、監督にとってどんなキャラクターでしょう。

「私は権力に対して究極の嫌悪を抱いていて、スネークはその象徴でもあるんだよ。スネークのキャラクターは全く変わっていない。クリント・イーストウッドが『夕陽のガンマン』と『続・夕陽のガンマン』で同じ設定、同じキャラクターであったように、変わって欲しくないんだ」

——今回、カーペンターが描きたかった世界観を教えてください。

「極端に社会的なメッセージを盛り込んだんだ。この映画ではアメリカの未来を描いていて、クリスチャン・ライト・ウィング(キリスト教右翼団体)が主権を握っている。そこから新しい大統領が選ばれ、彼らが制定したモラルで国民を規制することになる。中絶者や赤肉を食した者、喫煙者なんかをどんどんL.A.島へ国外追放してしまう。恐ろしいことだよ。(セットの片隅においてあるヘリを見て)あの国家警察のヘリ、実にナチらしくて、ファシストっぽいだよ」

——そんな不安を感じるのはなぜですか。

「アメリカは現在、最悪の状態だと思うし、世界的に見てもいい雰囲気じゃない。そういう全体的な不安が、私を懸念させているんだよ。暴動があり、地震があり、山火事があり……といった出来事が、映画に反映されている。その中で、今アメリカが変わりつつある。その現実を抽出し、ちょっとした未来を加えて、映画にしているんだ。でも映画はほどなく現実に近いものになっているはずだよ」

——95年に公開された2本のカーペンター映画についてはどう感じていますか。興行的には厳しか

ったようですが。

『マウス・オブ・マッドネス』と『光る眼』は、自分ではグレートだと思っている。ただ自作を評価するのは難しい。お金を儲けたか儲けなかったかで評価するものじゃない。自分で絶対にコントロールできない要素があるわけだからね。公開された時に、観客がどう思うかはあまり心配してないよ。年齢を重ねるにつれて、興行的失敗に対して怖くなくなってきてるんだ。若い時は失敗によって打ちのめされたけど、経験と年齢を重ねた今では気持ちをコントロールすることができる。私はハワード・ホークスの『ピラミッド』のことを考えるよ。そしたら気楽になったね。ただ成長しただけかもしれないけど」

——撮影はハードですか。

「とにかく大変だ。夜間の撮影で病気にもかかってしまい、家族にも会えないよ」

——ジョン・カーペンターにとって、映画で何を一番大切にしていますか。

「あくまでも重要なのはストーリーだよ。全てのものは、映画のマスターであるストーリーの前にひれ伏すことになる。ストーリーを語ることがなによりも重要なんだ」

カーペンターが描く『エスケープ・フロム・L.A.』のスネークの生き様と行動、そしてストーリーの陰に隠された“現代を生きていくのに必要な重要なテーマ”を是非共感し取って欲しい。ジョン・カーペンターは、現代の恐怖を映画で描き続けていく作家なのだ。



鷲巣義明
YOSHIKI WASHIZU

L.A. マップ

西暦2000年

① サンタモニカ

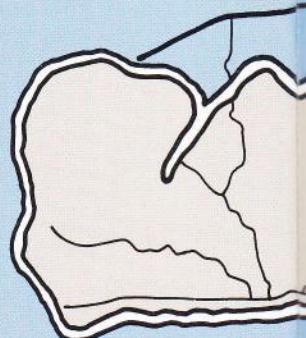
大地震で発生した大津波が最初に押しよせる場所の一つ。名物の観覧車も波にのまれる。

② ユニオン駅

教会のような形をしたステーション。大地震の時に発生した火災により壊滅。

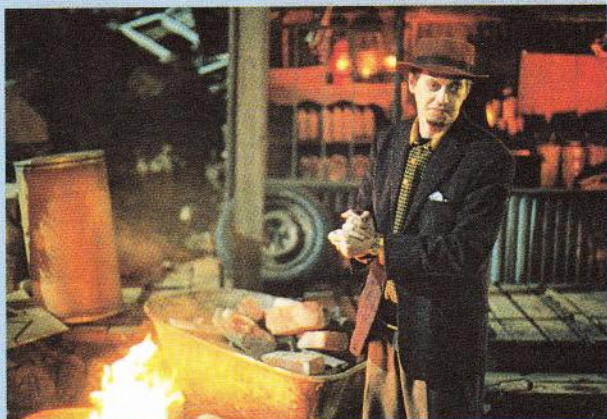
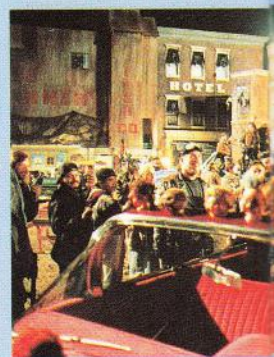
③ ウェスティン・ボナベンチャー・ホテル

ダウンタウンでひととき目立つガラス張りのホテル。大地震で崩壊する。



Malibu

SA
MO



西暦2013年

④ ユニヴァーサル・スタジオ

世界的に知られるアトラクションだが、今や海の底に沈んでいる。

⑤ コーエンガ通り

スネークが潜水艇で上陸した場所。この通りを南に向くとハリウッド・エリアに到着する。

⑥ ハリウッド・ボウル

コンサート専用の野外劇場。最初の目的地だが、救助隊の生き残りを発信器で追い、マルホランド・ドライブを横切って別ルートへ。

⑦ キャピタル・レコード

円盤を重ねたような形で有名なロス名物の一つ。現在は崩壊した姿が残っている。

⑧ マンズ・チャイニーズ・シアター

ロスで最も有名な建物の一つだが、今や娼婦の稼ぎ場と化す。この近くのバーが、発信場所であった。

⑨ サンセット大通り

瓦礫の山が続く通りと化したメイン・ストリート。ここでクエバはバレードを、追うスネークはバイク・チェイスを繰り広げる。

⑩ マップ・トゥ・ザ・スターズ・エディの家

サンセット大通りとドゥエニー・ドライブの角にある。

⑪ ビバリーヒルズ

世界有数の高級住宅地だが、今や誰も生きて帰れない超危険区域。かつてデラックスなホテルだったビバリーヒルズ・ホテルも今は残虐な外科病棟に。



国家警察監視地図

この監視の壁は、南東のオレンジ・カウンティ～北西のマリブまで続き、海岸線よりロスからの逃亡を見張っている



⑫ バーマント

サンタモニカ・フリーウェイと交差するストリート。冷たいコリアン・ドラゴンや、クエボのアジトがある。

⑬ メモリアル・コロシウム

エキスポジション・パーク内にあり、91,000人収容可の巨大スタジアム。'32年と'84年のオリンピック会場だったが、現在は殺人ゲームの開催場と化す。

⑭ ウィルシャー峡谷

かつてのウィルシャー通りが、大地震の影響で峡谷と化した。2度目の大地震で大津波が押しよせる。

⑮ ダウンタウンのポート

ロングビーチに停泊していた豪華客船クイーンメリー号が大津波で流れついたもの。現在はハシーのアジトと化す。

⑯ フリーウェイ5号線

バーバンクからサンタアナまでをまっすぐに突っ切るフリーウェイ。大地震後はハリウッド～アナハイムで道は途切れた。

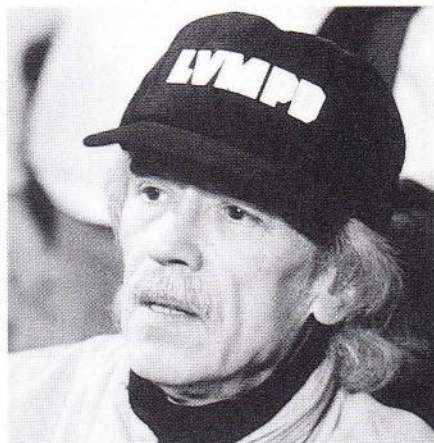
⑰ ハリウッド・サイン

L.A.の象徴。山の斜面にある巨大な看板で、一文字の大きさは13.7m。かなりの損害を受けるが“HOLLYWOOD”の文字は読み取れる。

⑱ ハッピー・キングダム

今や悪の拠点と化した、世界を代表するアトラクション、ディズニーランドの変わり果てた姿。





Director **JOHN CARPENTER**

監督◆ジョン・カーペンター

およそ20年間にわたりハリウッドきっての鬼才として熱狂的支持者を持つ一方、ヨーロッパでは常に高い評価を受けているカーペンター。彼の全ての作品には一貫した独自のスタイルがあり、時代を超越し必ずカルト化することでも知られている。

ニューヨーク州カーセージに生まれ、ケンタッキー州ボーリング・グリーンで育つ。幼少の頃に見た「遊星よりの物体X」を始めとするSFホラーに強い影響を受け映画の虜となる。これが後の映画製作における原点となった。

音楽教授でオーケストラの指揮者である父を持つ彼は、ウェスト・ケンタッキー大学、南カリフォルニア大学映画科に学ぶ。'70年にUSC在学中に製作した「ブロンコ・ビリーの復活」が、アカデミー賞短編賞を獲得した後、「ダーク・スター」(74)、「要塞警察」(76)①、といった低予算映画を大ヒットさせ、批評家からも絶賛された。続く「ハロウィン」(79)では、わずか30万ドルの製作費で世界中で7,500万ドルもの興収を稼ぎ出した。この一作でカーペンターは全く新しいタイプのホラー作家として注目を浴び、続くゴースト・ストーリーの傑作「ザ・フォッグ」(80)、SFとアクションのセンスを発揮した「ニューヨーク1997」(81)、特殊メイクと極悪エイリアンの頂点を極めた「遊星からの物体X」(82)といった話題作を連発し、彼の名は全世界に轟くと共に、早くもSF・ホラー映画の第一人者としてハリウッドに君臨するようになった。その後も、ビッグパジェット映画の作品コントロールやメジャー会社の制約に屈することなく、自らの姿勢を貫き通し新作を発表し続けている。

その他の主な監督作には、「クリスティーン」(83)、「スターマン」(85)、「ゴースト・ハンターズ」(86)、「パラダイム」(87)、「ゼイリブ」(88)「透明人間」(92)、「マウス・オブ・マッドネス」(94)、「光る眼」(95)がある。

Producer **DEBRA HILL**

製作◆デブラ・ヒル

久しぶりにカーペンター監督とコンビを組んだヒルは、ニュージャージー州ハドンフィールド生まれ。美術監督をしていた父親の影響で、幼い頃から映画製作に興味を持つ。テンブル大学を卒業した彼女は、アドベンチャー・フィルムズに入社し、製作の仕事に携わる。

その後ハリウッドに移ったヒルは、カーペンターと出会い、彼の「要塞警察」①(76)の脚本スーパーバイザーと編集アシスタントを務める。そして'78年にはカーペンターの代表作とも言えるホラー映画、「ハロウィン」で再びコンビを組み、製作、脚本を担当する。その後も「ザ・フォッグ」(79)、「ブギーマン」(81)、「ハロウィンIII」⑤、そして、前作の「ニューヨーク1997」(81)を手掛け、彼の右腕として実力を遺憾なく発揮した。

しかし、その後は単独で、アボリアッツ国際映画祭批評家賞を受賞した、クローネンバーグ監督の「デッドゾーン」(83)を手掛け、プロデューサーとしても一躍注目を集める。'85年には、長年の友人であるリンダ・オストと共に、ヒル/オスト・プロダクションズを設立。そして二人は、クリス・コロンバスの監督デビュー作でもある「ベビーシッター・アドベンチャー」(87)を製作し、続くテリー・ギリアム監督の話題作「フィッシャー・キング」(91)では、ベニス映画祭の銀獅子賞に輝いている。また、HBOのTVシリーズ「Monsters」では監督デビューを飾っている。

Production Designer **LAWRENCE G. PAULL**

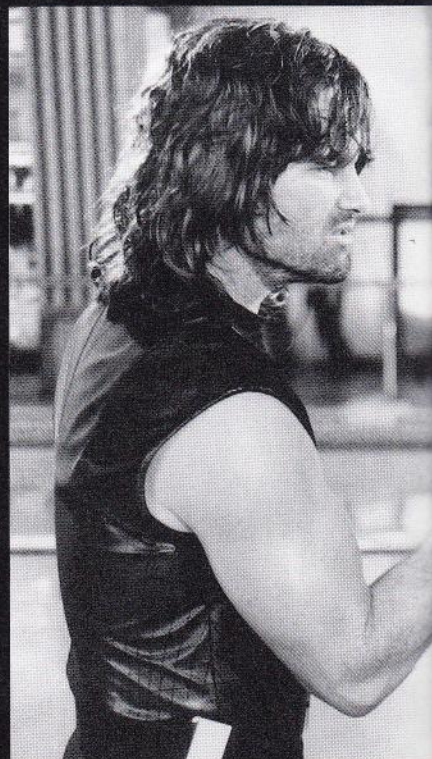
プロダクション・デザイン◆ローレンス・G・ポール

「ブレードランナー」(82)で2020年の世界を見事に描き、アカデミー賞にノミネートされたポール。

建築家として修行を積み、アリゾナ大学を卒業後、セット・デザイナーとして映画界で働き始める。すぐに才能を認められ、美術監督、プロダクション・デザイナーに抜擢された彼は、「お前と俺」(70)「さすらいのカウボーイ」(71)等を手掛け、注目を集める。

'82年に「ブレードランナー」で一躍有名になると、続いて'85年度のNo.1大ヒット「バック・トゥ・ザ・フューチャー」でも手腕を遺憾なく発揮している。その他の作品に「コクーン2/遙かなる地球」(88)「プレデター2」(90)「シティ・スリッカーズ」(91)「不法侵入」(92)「裸の銃を持つ男PART3/3最後の侮辱」(94)等があり、カーペンター監督とは「透明人間」(92)で一度組んでいる。

Pr



Staff Profile

roduction Notes



★スネーク・プリズケンについて

ラッセルは語る。「僕はこれまで幸運にも様々な人物を演じたが、スネークは一番のお気に入りだ。彼の魅力は不変的で本能的なキャラクターだと思う。観客は彼を感じても理解はできない。彼は人生の始めに、人生なんてあと60秒生き延びることだと悟ったんだ。彼ほど社会に適応できない人間はいないさ」

デブラ・ヒルは語る。「スネークは、時代に勢いをつけるカルト・キャラクターの一人よ。それをラッセルのように演じられる人間は、他にはいないわ」

カーペンターは語る。「ロサンゼルス大地震の後、カートがやってきて私に言った。「N.Y.で前に行ったことを今こそソスでやる時じゃないか」とね。彼は、スネークだけがもう一度演じたい役だと言う。スネークは何も手を加える必要のない古典的なキャラクターだ。本当は何者なのか、どういう素性なのか、誰も知らない。わかっているのは、彼が極悪非道の世界に生き、引き受けた仕事はやってのけるということさ。この映画は基本的には、カウボーイ・ノワールだね。これは未来を舞台にしたダークなウェスタンなのさ」

★監督についてラッセルは語る

「この映画ほど皮肉なユーモアがあり、L.A.を絶望的に描いた人間はいない。スネークもジョン自身の自我が変化した一つのパターンだ。彼は素晴らしいドライなセンスがあるし、世間の見方もユニークで、権威を徹底的に嫌い、常にいくらかコミカルに描く。ジョンのように独自のビジョンを持っている人間と、もう一度仕事ができスリリングだね」



★「エスケープ・フロム・L.A.」のアイデア

「ニューヨーク1997」の続編のアイデアは以前からあったが、具体的ななすみがついたのは、'94年のL.A.大地震の後だ。

ヒルは語る。「ジョンとカートと私は、7月のある日、あの地震で私達がどんな影響を受けたか7時間ほど話し合った。この数年の間に、皆、街から逃げる事一つの選択として考え出し、火事、洪水、地震、犯罪、暴力等が次々と私達を襲った。逃げ出したいという会話は、街だけでなく国中で聞こえた。それで私達は考えた。これをもう少し突き詰め結びつけたらどうだろうと。この映画をつくるには、絶好のタイミングだと思えたわ」

★クランク・イン

この映画は、昨年12月11日から70日間に渡る夜間撮影によって製作された。撮影は、グリフィス・パークのマウント・ハリウッド・ドライブの頂上で始まった。

ヒルは言う。「撮影の最初の晩はとても奇妙な感じだった。カートも私も、その前の金曜日に「ニューヨーク1997」の撮影を終えて、長い週末を過ごしたと感じてた。カートは、この映画の始めに15年前と同じ衣装を身につけていたし、それが完璧に似合ってた。それは、彼が自分のキャリアの中で唯一保管した衣装なの」

★L.A.島のプロダクション・デザイン

ローレンス・G・ボールは、その素晴らしい想像力で、地震で荒廃した未来のL.A.の世界を創り上げた。カリフォルニア州カーソンの埋め立て地に建てられた小屋やバラックのセットは、ボールが持っていたメキシコ地震と、60万人が死亡した中国の地震の写真からインスピレーションを得て造られた。その地区は、スクラップの金属でできたバラック小屋の立ち並ぶ町となり、狭い道路が瓦礫やガラクタの山の間にくねくねと通っている。その世界は、大地震に襲われた後の、身も凍るようなサンセット大通りだ。

ボールは言う。「このL.A.島では、人々は基本的には街路に暮らしている。従って私は、人間のしびれという工夫を感じさせる闇市やほったて小屋を創造しなければならなかった。その結果、様々な物をよせ集め重ねたイメージが出来上がった。他には、映画の殆どが夜間撮影だったため、屋外シーンの画面の中にあらゆる人工的な明かりが入らないようにすることが困難だった」

「我々はまた、地震がラッシュアワーに起きたと設定し、破壊されたサンタモニカ・フリーウェイのシーンを撮影した。このシーンも、カーソンの別の場所にセットを造り、廃車場から廃車200台を運び瓦礫の迷路に散らばらした。この数々の車には、家を失った人々が住みつき、車の街になっているんだ」

映画のクライマックスのハッピー・キングダムが撮影されたのは、ユニヴァーサル・スタジオのバックロット(屋外撮影用敷地)で、このテーマパークが古びて地震に被害を受けたように見える装飾が施された。

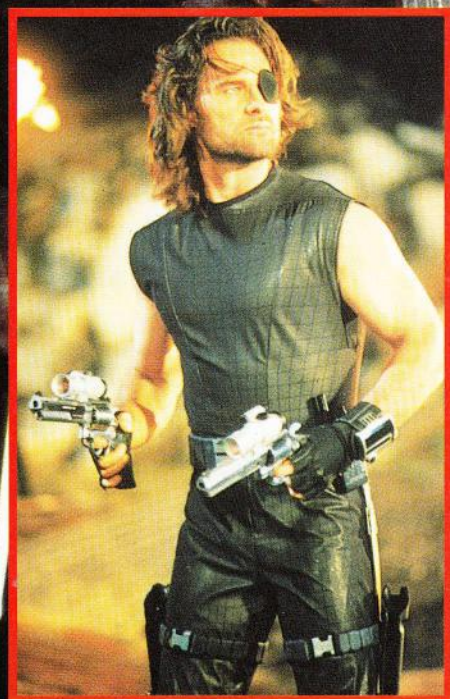
★津波撮影についてヒルは語る

「ミニチュア模型と水を使う撮影で難しいのはスケールよ。波がミニチュアのビーチを襲うと、それがミニチュア模型だとバレてしまうし、ミニチュアの水はないから、津波のシーンは難しいの。でもテキサスのテーマパークにあったウェイブ・ラックという、ウェイブ・マシーンを活用し、本当にエキサイティングな合成シーンを撮影することに成功したのよ」

★特殊メイク・アップについて

リック・バイカーが、この映画の多くの登場人物達に特殊メイクを施した。世界的に知られる美容整形外科のメッカ、ビバリーヒルズを皮肉った手術のやり過ぎのキャラクターをブルース・キャンベルが演じる。

バイカーは語る。「キャンベルのメイクには4時間半ほどかかった。ヘア・プラグを作り、顔や鼻を引っ張り上げ、耳を下げ、顔に縫い傷を作った。このメイクの全てが、本物の美容整形手術の技術を元にしている。ただそれより乱暴にやっただけだ。また我々は、唇にコラーゲンを使用しすぎたり、頬骨を移植しすぎたり、留め金や縫い糸で肉体的に奇妙なチューブをつけているといった恐ろしい姿の住人達も作り出した。カーペンター監督から薄気味悪くと言われたので、その通りにしたんだ」



STAFF

Directed by ♦ JOHN CARPENTER
Written by ♦ JOHN CARPENTER & DEBRA HILL & KURT RUSSELL
Based on Characters Created by ♦ JOHN CARPENTER and NICK CASTLE
Produced by ♦ DEBRA HILL & KURT RUSSELL
Director of Photography ♦ GARY B. KIBBE
Production Designed by ♦ LAWRENCE G. PAULL
Film Editor ♦ EDWARD A. WARSCHILKA
Costume Designer ♦ ROBIN MICHEL BUSH
Music Score Composed by ♦ SHIRLEY WALKER & JOHN CARPENTER
Supervisor of Visual Effects ♦ KIMBERLY K. NELSON
Special Effects Make-Up ♦ RICK BAKER
Special Effects Coordinator ♦ MARTY BRESIN
Visual Effects by Buena Vista Visual Effects
Action Miniatures by STIRBER VISUAL NETWORK INC.
Miniature Effects Supervisor ♦ JOHN K. STIRBER

CAST

Sneak Plissken ♦ KURT RUSSELL
Utopia ♦ A. J. LANGER
Map to the Stars Eddie ♦ STEVE BUSCEMI
Cuervo Jones ♦ GEORGE CORRAFACE
Malloy ♦ STACY KEACH
Brazen ♦ MICHELLE FORBES
Hershe ♦ PAM GRIER
Saigon Shadow ♦ JEFF IMADA
President ♦ CLIFF ROBERTSON
Taslima ♦ VALERIA GOLINO
Pipeline ♦ PETER FONDA
Surgeon General of Beverly Hills ♦ BRUCE CAMPBELL
Skinhead ♦ ROBERT CARRADINE

スタッフ

監督 ♦ ジョン・カーペンター
脚本 ♦ ジョン・カーペンター / デブラ・ヒル / カート・ラッセル
キャラクター創作 ♦ ジョン・カーペンター / ニック・キャッスル
製作 ♦ デブラ・ヒル / カート・ラッセル
撮影 ♦ ゲイリー・B・キップ
プロダクション・デザイン ♦ ローレンス・G・ポール
編集 ♦ エドワード・A・ワーシルカ
衣裳 ♦ ロビン・マイケル・ブッシュ
音楽 ♦ シャーリー・ウォーカー / ジョン・カーペンター
視覚効果スーパーバイザー ♦ キンバリー・K・ネルソン
特殊メイク・アップ ♦ リック・ベイカー
特殊効果コーディネーター ♦ マーティ・ブレスン
視覚効果 ♦ ブエナ・ビスタ・ビジュアル・エフェクツ
アクション・ミニチュアズ ♦ スターバー・ビジュアル・ネットワーク
ミニチュア効果スーパーバイザー ♦ ジョン・K・スターバー

キャスト

スネーク・プリスケン ♦ カート・ラッセル
ユートピア ♦ A. J. ランガー
マップ・トゥ・ザ・スターズ・エディ ♦ スティーブ・ブシェミ
クエボ・ジョーンズ ♦ ジョージ・コラフェイス
マロイ ♦ ステイシー・キーチ
ブレイズン ♦ ミシェル・フォース
ハーシー ♦ パム・グリア
サイゴン・シャドウ ♦ ジェフ・イマダ
合衆国大統領 ♦ クリフ・ロバートソン
タスリーマ ♦ バレリア・ゴリノ
パイプライン ♦ ピーター・フォンダ
ビバリーヒルズの外科医総統 ♦ ブルース・キャンベル
スキンヘッド ♦ ロバート・キャラダイン

ESCAPETM FROM L.A.

平成8年11月23日発行 ♦ 編集・発行 / 松竹株式会社事業部 ♦ 定価400円(税込み)

※掲載の記事・写真などの無断複製・複写・転載を禁じます。



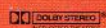
KURT RUSSELL

JOHN CARPENTER'S

ESCAPETM FROM L.A.

PARAMOUNT PICTURES PRESENTS

IN ASSOCIATION WITH RYSHER ENTERTAINMENT A DEBRA HILL PRODUCTION KURT RUSSELL JOHN CARPENTER'S ESCAPE FROM L.A. STACY KEACH
STEVE BUSCEMI PETER FONDA GEORGE CORRAFACE AND CLIFF ROBERTSON MUSIC SCORE COMPOSED BY SHIRLEY WALKER & JOHN CARPENTER FILM EDITOR EDWARD A. WARSCHILKA
PRODUCTION DESIGNED BY LAWRENCE G. PAULL DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY GARY B. KIBBE BASED ON CHARACTERS CREATED BY JOHN CARPENTER AND NICK CASTLE WRITTEN BY JOHN CARPENTER & DEBRA HILL & KURT RUSSELL
PRODUCED BY DEBRA HILL AND KURT RUSSELL DIRECTED BY JOHN CARPENTER



www.escape-la.com

MUSIC FROM AND INSPIRED BY JOHN CARPENTER'S ESCAPE FROM L.A. AVAILABLE ON LAVA RECORDS

VISUAL EFFECTS BY BUENA VISTA VISUAL EFFECTS

TM & COPYRIGHT © 1996 BY PARAMOUNT PICTURES
ALL RIGHTS RESERVED

